



平成30年4月9日(月)
校長通心 No.33 校長 馬渡教二

待たれているから 宮澤幸二

時には あたたかな目で
時には きびしい目で
ほくらを一心に待っているものが
はるかな行く手に 高く手をあげている

前途が つねに快晴とは限らない
明るかったり暗かったりするけれど
雨や雪が一年中降りつづくことなどない

一心に待たれているから
ほくらは 一心に生きることが出来る
一心に歩きつづけることが出来る

歩きながら ふと投げる視線の先
はるかに待っていてくれるものの光が
足元にまで美しく
とどいている
その光をほくらは
「未来」と呼ぶ



平成30年度スタート「仁・陣・韌」～慈しむ心・チームを大切にできる心・しなやかで強い心～

いよいよ30年度がスタートした。新しい出会いを大切にスタートしたい。そのためには**お互いに理解し合い、そして、笑顔で接すること**が一番だと思う。心から笑顔で話せる人は相手の心に「出会いの花」を咲かせるような気がする。本年度の湊中学生徒会テーマは『仁・陣・韌』～思いやりの心、人を慈しむ心・学級、学年、学校のチームを大切にできる心・しなやかで柔らかく、そして強い強い心～と生徒会が設定してくれた。まずは、3月26日の離任式の先生方の言葉を思い出してほしい。

教頭先生…ものごとには、光と影がある。技術の授業で扱っている工具も間違った使い方をすると人を傷つけてしまう。使う人の使い方ひとつで光にも影になる。スマホをはじめすべてのものを、正しく使える大人になってほしい。

最上先生…一年間だけ楽しかった。みんなに感謝する。世の中のためになる人になってほしい。

大野先生…生きてるとうまくいかない場合が多い。そのとき①人のせいにならず、自分で頑張れることを必死にやること。②こちらから歩み寄っていくこと。それが大切。

下沢先生…8年前ここに立つての新任式をハッキリ覚えている。自分たちの校歌をこんなに誇らしげに歌う学校があるんだと感動した。本当に人間らしい生活のできた学校。卒業dvdを見ながら、みんなに「まだまだやれる!」とカツを入れてハードルをあげてきたけれど、それについてきたみんななら、どこでも頑張れると思っている。自分の想いをわかってほしかったら、まず、相手の想いをわかることが大切。そして、想いと感情は違うということをわからなければならない。

百目木先生…湊中で一番自分が変わったのは、言葉をわかりやすく伝えること。言葉は一瞬で通りすぎるけど、それでも心に突き刺さり想いをわかってやれる。そういう瞬間をいっぱいみてきた湊中だった。

菅井先生…全校に授業できる自分は幸せ者。一年生⇒美術を楽しんでいる、その素直さ・真っ直ぐさを忘れずに進んでいってほしい。二年生⇒人の話を受け止めて聞いてくれる。それはこれからさらに伸びていけるという証拠。三年生…悩んだり大変なことがいっぱいあったけど、それ以上に全力でやる姿を見せてくれて、勉強させてもらった。これからも自分の思い通りにいくことは少ないはずだけど、「あっちが良かった」とひきずってはいけません。自分の心の持ちようで環境は変わる。

向井先生…採用になって初めての湊中が自分にとっての土台なので、これから先の全ての基準となると思う。①今の自分の状況が当たり前だと思っはいけない。支えてくれている人たちに感謝しなければならない。3年間毎年部活が変わったけど、どの部もみんなの父さん母さんはいっ応援してくれている。②「好きこそものの上手なり」という諺にあるように、好きなことにとことんうちこめる人になってほしい③英語は自分の周りにいる人を受け入れる教科なのだけれど、自分の苦手な人を受け入れていくことが大切だと思う。

木村先生…今までは30～40人の小さな学校だったけど、湊中に来て、こんなにも切磋琢磨できる仲間がいるのがステキだと思った。この仲間を大切にしてほしい。

中村先生…6組だったけれど、いつもみんなから声をかけてもらったのがうれしかった。「おはよう!」「髪切った?」「今日はジャージなの?」…4月から別の場所になるけど、自分も温かい挨拶や声掛けをしていきたい。

そして、新任式で新しく来られた先生方はパフォーマンスで意気込みをみせてくれた。

高橋教頭先生…気功にはまっている教頭先生は、みんなの力を借りて見事演台の紙きれを空中に舞い上げた。松橋先生…2年前から始めたと思えない腕前で家族の風景を描いた油絵をみせてくれた。附田先生…みんなに伝えたい歌詞ということで、絢香の「夢を味方に」を歌ってくれた。林崎先生…朝・昼・晩の手話を使ってのあいさつを教えてくれた。岩沢先生…絵本にある「はらぺこアオムシ」の歌でクイズを出してくれた。最後は、須藤先生、高山先生、土嶺先生の3人が、新体操(もどき)の見事な演技をみせてくれた。

このように、先生方も別れと出会いの入り混じるスタートの4月はそれぞれいろんな思いを持っているのが伝わってくる。毎年やってくる4月のスタート。その時の新鮮な思いは、生徒も先生も変わらないと思う。共通しているのは、みんなも昨年の自分や昨年の集団よりも、もっと良くなりたい。もっと成長したいと思っていること。先生方も、昨年度より、もっともっとみんなを成長させたいと思っていること。そういう共通した思いで「スタートがあるんだ」ということを、自覚して、この出会いというスタートを大切にしていかなければならないのだと思う。

つまり、出会いを大切にすることは、自分のことを理解してもらおう努力をすること。そして、相手のことを理解する努力をすることだと思ふ。互いに互いを理解し合うための、『心と魂のキャッチボール』をしっかりやっていくことを心掛けてほしい。

二週間前の終了式にみんなに伝えた…「**今日から湊中を前に進めていくのは君たちの(情熱)だということ! その情熱は湊中学生徒としての(誇りと責任)から生まれ、それが先輩たちを超えることにつながっていくということ! みんなの誇りと責任が、苦しいときも辛いときも、絆シャフトの心棒を握りしめ、「文車輪」と「武車輪」の両輪を回し続けるといこと!**」を忘れずにスタートしたい。

本年度は全校生徒305名でのスタートである。日めくりカレンダーをめくるように人や集団はすぐには変わることはできないのだけれど、このスタートを機会に何か一つ決心し、それを胸の中に刻んで歩き始めなければならないのだと思う。もちろん**前に進むには必ず苦しさや辛さを伴う。それを乗り越えられる「強靱でしなやかな絆シャフト」づくりがこれから始まるのである。**

